平成27年6月16日

江戸川区　計画相談支援

初心者フォローアップ研修

グループワークの成果（まとめ）

第１グループ　　　　　　　　　　　　　　和西、楠間、古澤、金井、滝口、草薙（愛・小杉）

サービスを使っていない人の計画

・ニーズがなく、今後利用する可能性もない場合は中止。

・念のための支給決定している場合については、モニタリングを通じて生活状況の変化を捉えることが必要。

利用者のニーズへの対応

・重度の方が利用できる短期入所先が少ない。夜間看護師がいないために利用を断られるケースあり。利用できる範囲を広げることが必要だと感じる。

・放課後等デイは、事業所も増え、比較的スムーズに利用に結びついている。

・一人暮らしの体験宿泊がある（ｲﾝﾌｫｰﾏﾙ）。模擬体験を通じて課題整理できる面も。

社会資源の探し方

・豊かな生活を支えていくために余暇活動なども盛り込むことが必要。

・現地に足を運ぶことが一番。直接見ると、対象者が活用できるか確認できる。

・（要望）社会資源の情報が一目でわかるマップのようなものがあると助かる。

第2グループ　　　　　　　　　　　　　　　　増山、塩田、重杉、山中、田中（身・横田）

社会資源の探し方

・やはり積極的に見学に行くことが関係づくりにつながる。

・保健師やワーカーを巻き込むことで収集できる情報がある。

・ケアマネであれば訪問介護事業所等からの営業もあるが、障害では少ない。

ケアマネ協会や地域包括主催の交流会が有効なので、障害版があるといい。

　・東部マップ（とうきょう会議 発行）がお客様に見せるのにも使いやすい。

・安否確認では、高齢者向けの配食サービスが食事抜き250円や、ヤクルトの宅配で手渡しもある（インフォーマル）。

第3グループ　　　　　　　　　　　　　　　　　　金親、遠藤、橘、兼子、高橋里（愛・勝本）

情報収集の難しさ

・ネット検索をしたり、支援する中で生まれた様々な繋がりを生かして情報を得ていくのが大事。また、インフォーマル・サービスにも幅広く視野を広げること。

事業所のスーパービジョン

・上司がいない中、何が正解で何が誤りなのか分からず、不安に思うことも多い。

・モニタリングを通じてスキルを上げていく観点も必要。初めて会ってからわずかな時間で計画を作成するのは大変難しい。時には、対象者とキャッチボールしながらその場で計画を作成することも必要。

相談支援専門員の業務の範囲

・親亡き後の対応。現状では、施設入所やＧＨに関してはＣＷがほぼ先導役だが、専門員の関わり方や区職員との棲み分けは今後の課題。

第4グループ　　　　　　　　　　　　　　　青沼、樋口、早坂、水鳥、保坂（事・山脇）

社会資源の探し方ほか

・地域活動支援センターでは、就労移行支援の利用終了後もアフターフォローも行う。

・インフォーマルなサービス、例えば、放課後ケアのボランティア団体は把握できない。ボランティアセンターへ、直接問い合わせてみることも有効。

・介護保険では、ケアマネの地域連絡会があって、そこで様々な情報を得られる。

・サービス担当者会議の際に、事業者から情報を得るように努めている。

・保護者から直接聞いた口コミは確度が高い。

・開設後、サービス提供事業者が営業に来るようになった。

・相談支援専門員だけで考えず、生活介護の支援員等に意見を求めることも有効。

第5グループ　　　　　　　　　　　　小嶋哲、金田、高橋忍、蛭川（精・佐々木、就・荒川）

社会資源の探し方

　・よりよいサービス等利用計画を作るには、利用者のニーズを顕在化させ、真に必要かを精査した上で、そのニーズに対応できる事業所につなげることが不可欠。

　・例えば、リウマチの方の入浴支援ではどこなら入浴できるか？　調理の経験を深めたいという希望に沿えるサービスはあるか？　などきめ細かいニーズに合うサービス・事業所を見つけていくのは大変なこと。

　・事業所情報を増やすには、専門員個人だけでなく、利用者・家族のネットワーク・相談支援事業所間でのつながりなど多方面で関係強化を図ること。

　・利用者への同行見学は、自分の目で確かめる絶好の機会。そのような機会でないと事業所の見学ができない。

第6グループ　　　　　　　　　大田原、小嶋せ、永野、貝塚、山田（庶・井上、事・植村）

　困っていること、大変なこと

　・利用者との面談がキャンセル等の頻発で困難。会えても短時間など関係を築くには前途多難と感じている。

　・サービス提供事業所と兼務で多忙。しかしながら、利用者への付添いなどは安心につながる。私たちは時間を作る努力をしなければならない。

　・利用者とサービス提供事業所の関係が濃く、どこまで立ち入ってよいか悩む。

　・サービス担当者会議の開催をどこまで徹底できるか。利用先が多いと全員集合のハードルが高すぎるようにも感じる。しかし、サービス担当者会議を通じて、サ責に働きかけ、サービスが改善されたことがあった。様々な可能性があるのでは。

　・支援する人－される人のみの関係であったところに、相談支援専門員という第三者が入るのは良いこと。

　・サービス担当者会議は、現実問題もある。完璧を目指して挫折するよりできることから。支援の必要性の高い人を見極め、小規模でも集まっていく考え方で臨むべき。

付記

社会資源の探し方は、多くの方が挙げる課題。区にできることも今後模索しますが、皆さん自身の行動で築いたネットワークや生の情報こそ、相談支援専門員としてのチカラとなり、財産になっていくのだと思います。一層のご活躍を期待しています。